

本科 6月12日(木)

第12・13回講座 「川・沼の自然入門」

講師 大木 淳一氏 (県立中央博物館 房総の山のフィールド・ミュージアム主任上席研究員)

日時 6月12日(木) 10:00~15:00

場所 養老溪谷・君津亀山少年自然の家

テーマは、幻のカエル・タゴガエルが語る自然環境

大木淳一講師による「川・沼の自然入門」の講座が梅雨空の養老溪谷を舞台に開催された。大木講師はご専門が地質学で、生物の生息環境を地質学的に研究されており、房総丘陵に分布する幻のカエル・タゴガエルに関する著書も出版されている。小雨が降ったり止んだりの中、小湊鉄道の養老溪谷駅を出発し、梅が瀬茶屋までの約1.2Kmの田んぼ道ウォークでのカエル探しから講座は始まった。ニホンアマガエルやシュレーゲルアオガエル、ヤマアカガエルなどの説明の合間には鳥の鳴き声のようなカジカガエルの鳴き声を聞くことも出来た。そして水田の上に覆いかぶさる樹木の枝にモリアオガエルの白い卵を発見し歓声が起こった。また房総丘陵でよく見られる砂と泥の層が交互に重なった砂泥互層の地層の説明では地球の歴史に比べ、ほんの僅かの90万年前の梅が瀬層の説明が行われた。午後は、前日からの大雨で梅が瀬溪流の水位が上昇したため、幻のカエル・タゴガエルを探しての梅が瀬溪流遡行の計画を変更し、君津亀山少年自然の家へ退避し、和室を借りての講義となった。講師の用意されたスライドによるタゴガエルの生態に関する話は非常に興味深いものであった。



小雨が降ったり止んだりの梅雨空の中を梅が瀬茶屋に向かって小湊鉄道の養老溪谷駅を出発。



田んぼ道ウォークでカエル探し



水田のオタマジャクシについて説明する大木講師。



小さなニホンアマガエルを発見



砂泥互層の梅が瀬層についての説明を聞きました。



大木講師のご専門はカエルではなく、地質学でした。



梅が瀬茶屋に到着するころには雨も小雨になりました。



午後は、君津亀山少年自然の家へ退避し、和室での講義となりました。